

富永議員（自民議連）

平成 27 年 12 月 9 日  
教育長 答 弁 実 録  
（ 教 育 委 員 会 ）

（問）今後の「学びの変革」の方向性について

平成 10 年、県教育委員会は当時の文部省から、本県教育が、法令等から逸脱、もしくはそのおそれがあるとして、教育内容関係、学校管理運営関係、計 13 項目について、是正を図るとともに、是正状況を報告するよう求められた。

是正の過程で明らかになった当時の実態は、学校の管理運営面では、校長の本来の権限の行使が著しく制約され、教育内容面では、学習指導要領を逸脱し、教育の中立性が大きく損なわれ、悪しき平等主義や行き過ぎた権利主張に基づく教育が行われる事態が生じており、この結果、他県と比較して著しい学力の低下を招き、少年の犯罪率は、全国でもワースト 1 位、2 位を争う状況を呈していた。

こういった厳しい状況は、本県議会や国会でも取り上げられ、本県教育の不適正な実態を明らかにしつつ、歴代教育長の強いリーダーシップの下、知事、教育委員会、そして県議会も総力を挙げて、県民総ぐるみで教育改革に取り組んできた。

校長等が相次いで自ら命を絶つという犠牲を払う中で、今日まで、教育の中立性と公開性を柱として、県民から信頼される公教育の実現に向けた様々な取組が行われてきた。

教育委員会も、全国に先駆けて「学校評価システム」の導入など、改革のための仕組みづくりや、「基礎・基本」定着状況調査など、本県の教育の充実と発展を図る取組を継続してきた

このような県を挙げた取組の結果、本県の教育水準は、例えば、全国学力テストや体力・運動能力テストにおいてベスト 10 に入るまで改善し、県立高等学校における大学進学実績を見ても、大幅に向上しているところである。

そして、昨年 12 月、「広島版『学びの変革』アクション・プラン」が策定されたが、これは、全国に先駆けて、社会のグローバル化に対応した新たな教育モデルを構築しようとするものであり、大変期待をしている。

このアクション・プランに基づいて、今年度から、様々な具体的取組に着手しているが、私は、この「学びの変革」アクション・プランの策定は、是正指導以来の、本県教育の正常化と改革の歴史が辿りついた「新たな地平」

であると思っており、これまでの歴史の上に立って、ここから、現在のグローバル社会に生きていく子供たちを、我が県がどのような教育をもって送り出していくのか、まさしく、新たな歴史をどのように切り拓いていくのかを試される局面に立っていると思う。

そこで、これまでの教育行政の歴史の上に、どのように、新たな歴史を築いていこうとしているのか、「学びの変革」の実現に向けた今後の方向性について、教育長の認識と決意を伺う。

(答)

現在の本県教育は、是正指導以来の様々な改革・改善に取り組んできた結果、辿り着いたものであり、是正前の状況に戻るようなことは絶対にあってはならないと考えております。

これまでの取組により、「知・徳・体」のそれぞれの面で、着実に成果が表れているものの、グローバル化が急速に進展する中においては、子供たちに、変化の激しい先行き不透明な社会をたくましく生きていくことが出来る資質・能力を育成する必要があると考え、本年度から「学びの変革」に取り組んでいるところでございます。

この「学びの変革」は、基礎・基本の徹底をはじめとするこれまでの取組を転換するものではなく、「生涯にわたって主体的に学び続ける力」を全ての子供たちに育成することを目指して、取組を更に充実・発展させていくものでございます。

この「学びの変革」を着実に推進することによりまして、広島で学んでよかったと思える日本一の教育県の実現に向けて全力で取り組んでまいります。